

令和7年度第2回唐津市行政改革推進会議 会議概要

(令和7年11月6日開催)

1 議題と主な意見

(1) 前回の会議結果の確認について

(2) 新たな行財政改革プラン（仮称）について

- 重点項目「1. 総人件費の抑制」と「3. 組織機構の適正化」は取組項目が重複していることも踏まえて類似事項と考えられる。セクションごとの考えもあるだろうが、例として「人、もの、効率化」の3点に項目を分けた検討をしてみてもどうか。
- 指標に研修実施数とあるが研修は数ではなく質である。受講者が積極的に能動的に参加し意見を生み出すようなものであるべきで、また研修の満足度についても重要である。
- 公共施設の指標に削減面があるが、利用率も一方で大事である。また、DXについては指標の数値から状況を確認しつつ、効果検証も必ず実施していただきたい。

(3) 令和6年度行政評価（1次評価）について

- 今後行政評価の仕組みを変えるだろうが、数値目標（指標）は適正な設定となっているかを十分に留意いただきたい。
- 新たな行政評価では、事務事業の見直し、廃止をしっかりと行っていただきたい。新しい事務事業が増え続けるだけでは業務量も減っていかない。事務事業の効果検証をし、職員の負担軽減も考慮しながら効率的な仕事を心掛けてもらいたい。

(4) 市民センターのあり方（案）について

- 今後の市民センターのあり方の基本方針（案）について、今後の大きな方針であることから「③の現在の市民センターの圏域を越えた業務の集約や建物の統合」を、1番目の方針とすべき。この方針に基づいて建物の統合等を進めたが、実現できなかった場合に別の方策を検討すべき。
- 「圏域」という表現や、総合計画の「地域区分の設定」の色分けも気になるところ。現在も旧市町村（現在の市民センター）単位を基本とすることについて、合併後、20年が経過したことから、この考えを変えていく必要がある。
- 行財政改革を進め、「人づくり」など本来、市が実施すべき事業に注力されることを望む。

2 今後の対応

会議の結果は市のホームページで公表するとともに、関係各課と共有し、今後の取り組みの参考とする。